「はまかぜ」（金沢版）
平成27年6月12日号

連載　第66回　横浜市会議員 おばた正雄氏　横浜を語る

市会報告　新市庁舎新築移転工事について（上）

新市庁舎建設前に、重要課題の解決を!?
建設は2020年のオリンピック後に！

横浜市会の第2回定例会は5月15日から29日まで開催され、新市庁舎移転新築工事の設計費の補正予算案が自民・公明・民主などの賛成多数で可決しました。

私の所属する「維新の党・ヨコハマ会横浜市議団」の10人の議員などは、この議案に反対しました。このほか46議案を可決し閉会しました。

Q.新市庁舎移転新築計画とは？

A.新市庁舎の建設問題は20年前の平成7年に市庁舎整備審議会から答申が出ていましたが、歴代の市長は横浜市では市民・区民利用施設が非常に不足しており、まず市民利用施設の整備を優先して行うべきであるとの方針を示し、10年前に現市庁舎を50億円以上かけて耐震・免振補強工事を行い、続いて議会棟についても7億円かけて耐震工事を行い、50年間は使用可能です。

ところが、2020年のオリンピック・パラリンピックが東京開催に決定すると、林市長は、東京五輪に訪れる外国の賓客を〝おもてなし〟するために、新市庁舎を建設したいという方針を打ち出しました。また現市庁舎は狭く、周辺に10か所の民間ビルを借り上げ、その家賃が毎年、20億円以上かかり、当初、建設費は600億円と見込み30年分の家賃は600億円に達するので、30年間、家賃を払い続けるのであれば新市庁舎を建設することは妥当としました。

Q.建設費用は？

A.今回示された新市庁舎の設計・建設費は昨年3月の基本計画時より133億円増の749億円となり資材や人件費が高騰しており、今後も高騰が続くものと見込まれます。

移転場所はURから取得したJR桜木町駅近くの北仲通の用地です。

Q.反対理由は？

A.結論は、市庁舎建設はオリンピック後にすべきで①未だ、市民利用施設が不足しており、金沢区でも区民文化センターや地域ケアプラザなどの整備が急務。②東日本大震災の復興事業や東京五輪に伴う建設工事などが首都圏で急増し、技術者や労務者不足と人件費や資材費が30％以上も高騰し、東京五輪後の建設不況が予測されます。従って、建設は五輪後にし、市政の重要課題を先に解決すべきでしょう。（続く）

維新の党・ヨコハマ会
横浜市会議員団
横浜から日本を創る！
横浜市議 おばた正雄

〈プロフィール〉
昭和54年より横浜市会議員。10期。
〈ご相談・ご連絡先〉
事務所：金沢区谷津町332
TEL：045－783－7869
FAX：045－786－5315
obatamasao17@gmail.com
おばた正雄HP　検索